

化粧による感情の変化

安藤ゼミ 道德美佳

目次

第1章 序論

- 第1節 化粧の歴史
- 第2節 化粧のはたらき
- 第3節 化粧から得られる効果
- 第4節 化粧による感情の変化とその活用

第2章 研究1

- 第1節 目的
- 第2節 方法
- 第3節 結果
- 第4節 考察

第3章 研究2

- 第1節 目的
- 第2節 方法
- 第3節 結果
- 第4節 考察

第4章 総合考察

- 第1節 化粧による感情の変化について
- 第2節 女子学生の考える化粧の目的
- 第3節 女子学生の化粧の現状
- 第4節 本研究の限界と今後の展望

引用文献

参考文献

謝辞

付録

研究1で使用した質問紙

研究2で使用した質問紙

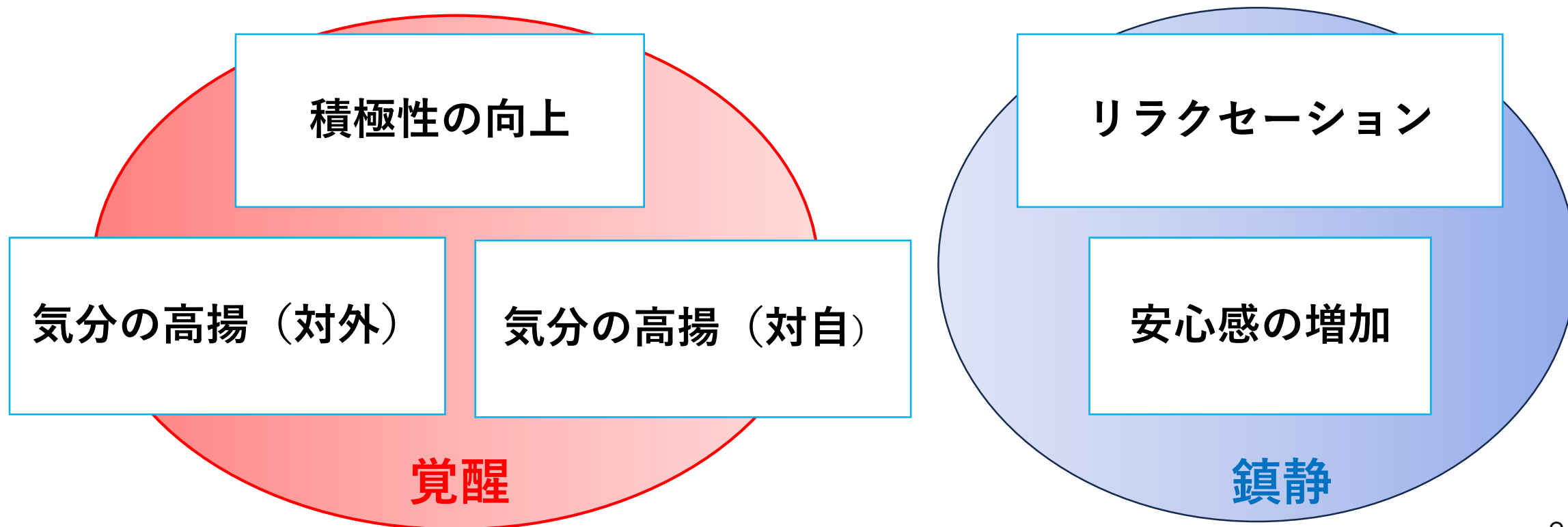
化粧前に配布した質問紙

化粧後に配布した質問紙

問題・関心

メイクアップの心理的効果（宇山・鈴木・互，1990）

専門家によるメイクアップでは、より感情表出が活性化する。



研究の目的

■研究1

付加的な研究としており、質問紙調査によって女子学生が考える化粧の目的と女子学生が行う化粧の現状を明らかにする。

■研究2

化粧によって感情がどのように変化するのかを実験で調査する。

調査概要と実験の手続き

研究1

■調査期間

2024年4月1日～2024年5月4日

■対象者

奈良女子大学の学生52名

■内容

質問紙調査(Google form)

研究2

■実施期間

2024年7月17日～10月30日

■対象者

奈良女子大学の学生18名

■内容

実験

アンケート→化粧→アンケート

研究2で使用したアンケートの質問項目

化粧の前後に配布したアンケートの共通の質問項目

積極性の向上

人に会いたい
何かしたい

リラクセーション

くつろいでいる
リラックスしている

気分の高揚（対外）

やる気が出ている
明るい気持ちだ

気分の高揚（対自）

自分が好きである
嬉しい

安心感の増加

安心している
恥ずかしくない

宇山・鈴木・互（1990）を参考に作成

結果①

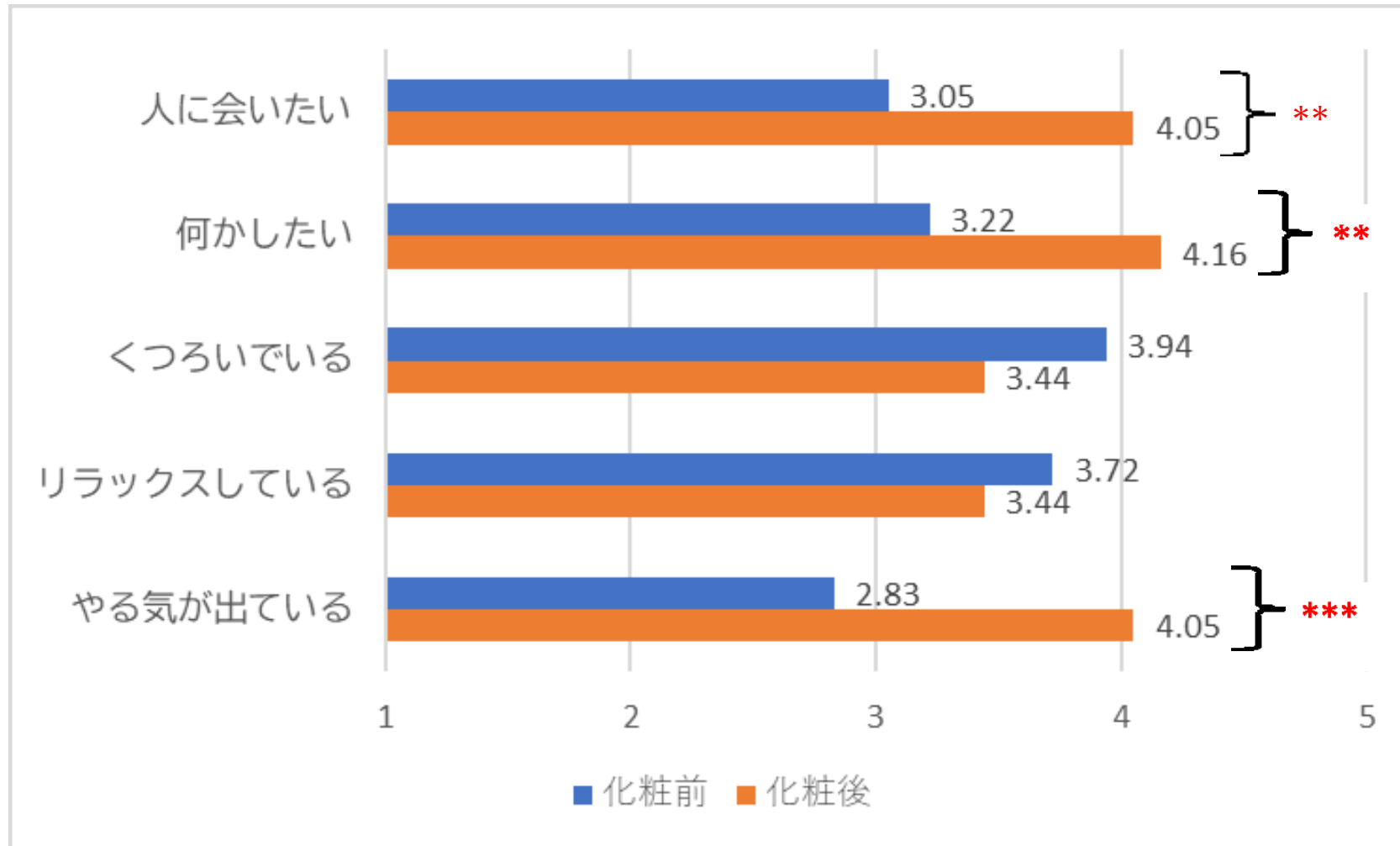
化粧をする目的の各項目の平均値

	平均値（標準偏差）
気持ちが引き締まるから	4.09 (0.98)
コンプレックスを隠せるから	3.82 (1.26)
異性の目が気になるから	3.80 (1.09)
積極的になれるから	3.76 (1.13)
同性の目が気になるから	3.73 (1.07)
周りの人がしているから	3.5 (1.18)
化粧はマナーだと思っているから	3.38 (1.10)
気持ちが落ち着くから	3.09 (1.30)
男性に魅力をアピールできるから	3.05 (1.19)
リラックスできるから	2.25 (1.13)

結果②

化粧の前後の感情の変化の平均値の比較

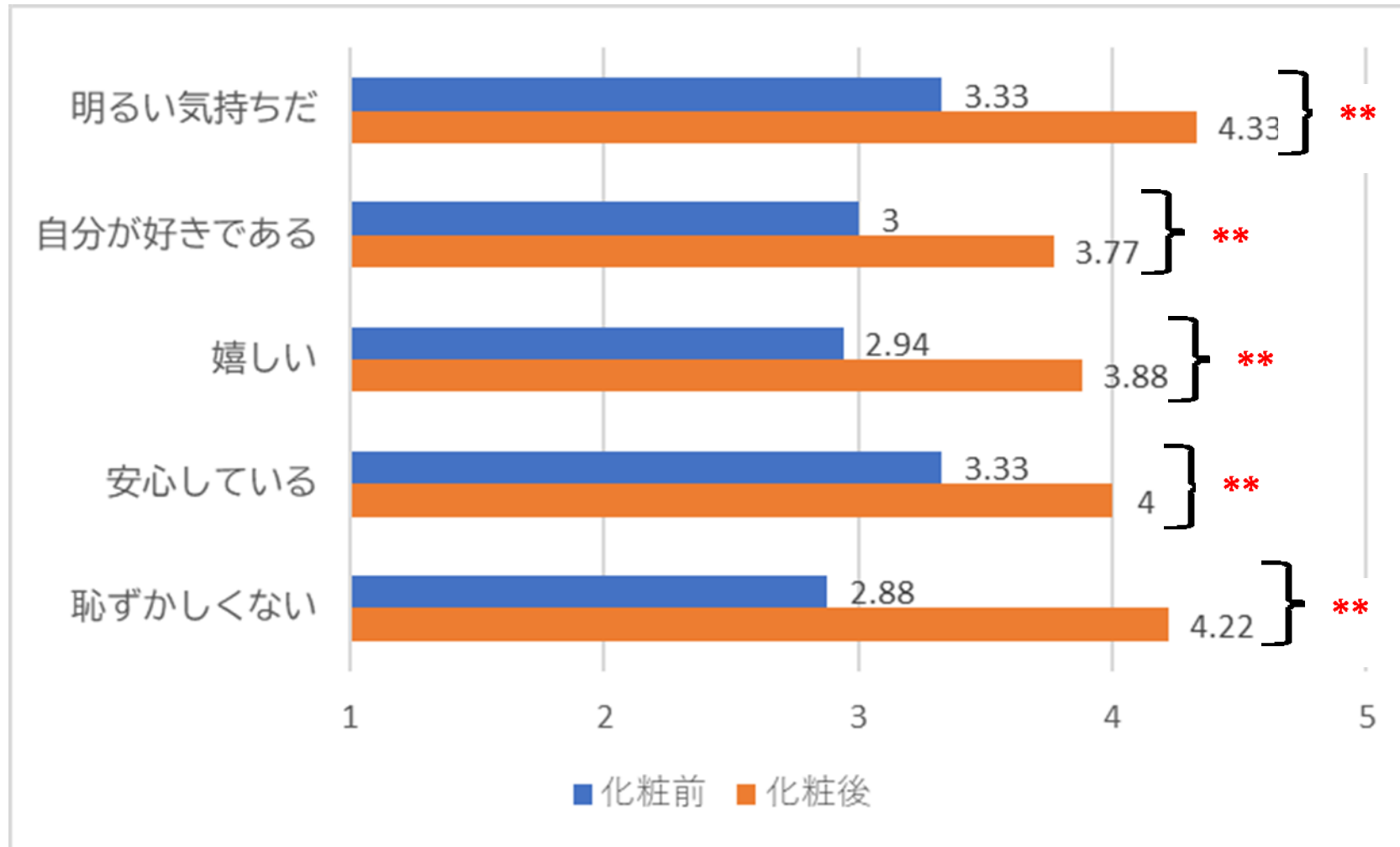
*** $p < .001$, ** $p < .01$



結果②

*** $p < .001$, ** $p < .01$

化粧の前後の感情の変化の平均値の比較



考察①

女子学生が考える化粧の目的

- 自身の感情をコントロールする目的
- 自分に自信を持つ目的
- 周囲に溶け込み安心感を得る目的

- ・「リラックスできるから」は女子学生には化粧の目的と考えられていない。

考察②

- 積極性の向上、気分の高揚(対外)、気分の高揚(対自)、安心感の増加といった効果は先行研究同様に化粧によって得られた。
 - ➡化粧は容姿を変化させることで、不安感を減少させ、自信や満足感を高める手段の1つ
- リラクセーションの効果は得られたといいがたい。
 - ➡研究1の結果と合わせて考えると、女子学生にリラクセーションは重視されていない

引用文献

- 宇山侑男・鈴木ゆかり・互恵子(1990). メーキャップの心理的有用性 日本香粧品科学会誌, 14(3), 163-168
- 鈴木ゆかり・互恵子(1993). メーキャップした時の気持ち 資生堂ビューティーサイエンス研究所(編)化粧心理学 化粧と心のサイエンス, 276-280, フレグランスジャーナル社